

平成 24 年 10 月 9 日

iPS 細胞樹立とバンキングに関するお願い

厚生労働科学研究費助成金 難治性疾患等克服研究事業 研究代表者
(独) 国立成育医療研究センター 臨床検査部長 ライソゾーム病センター長
成育バイオバンク希少疾患担当
奥山 虎之

先天代謝異常症患者家族会の皆様

難治性疾患等克服研究事業「小児希少難病の患者家族会ネットワークを活用した患者臨床情報バンクの構築とその創薬等への活用」では、大変お世話になっております。

皆様、すでにご承知のことと思いますが、人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) の開発者である京都大学の山中伸弥教授が、ノーベル医学生理学賞を受賞されることになりました。この受賞を契機に、iPS 細胞は、難病治療薬の開発や細胞治療・再生医療の発展に今まで以上に大きな力を発揮することが期待されます。

(独) 国立成育医療研究センターでは、昨年から、他の 6 つのナショナルセンターと協力して、バイオバンクの構築を進めています。この成育バイオバンクの大きな目的のひとつが、希少難病の iPS 細胞の樹立とそのバンキングです。バンキング事業とは、単に、検体をたくさん収集するだけでなく、それを世界の研究者や企業に適切な手続きのもとで配付し、病態解明や治療法開発の研究を効率よく推進する事業です。特に、このナショナルセンターバイオバンク事業においては、質の高い診療情報 (疾患の重症度と遺伝子型との関係など) と検体との関連を保ったままバンキングすることが特徴です。希少難病の iPS 細胞は、病気の成り立ちや治療薬の開発に大きな力を発揮するものと期待されていますが、希少であるが故に、診療情報との関連はきわめて重要になります。

皆様のお子様の iPS 細胞が新たな治療法の開発に大きく貢献する可能性があります。ご負担は、1 回 5ml 程度の採血だけです。現在、iPS 細胞の樹立とそのバンキングについて、当センターの倫理委員会で審議されており、早ければ、年内にこのバンキング事業が開始されます。

私たち先天代謝異常症の専門医集団と患者会の皆さんは、患者登録を行うことにより、新しい関係を構築する基礎を作りました。この関係をさらに発展させ、iPS 細胞のバンキングを円滑に行うことができれば、日本から発信できる新しい治療法の開発も近い将来可能となるでしょう。そのためにも、皆様のご協力が不可欠です。

倫理委員会での承認を受け、正式にこの事業が開始されましたら、改めてご案内申し上げます。なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

ナショナルセンターバイオバンクネットワーク (National Center Biobank Network : NCBN)

ホームページ : <http://www.ncbiobank.org/index.html>

(独) 国立成育医療研究センター バイオバンクホームページ <http://www.ncbiobank.org/NCCHD.pdf>